

## 平成30年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考	
1 生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、SPH事業の成果の継承推進)	①	県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、SPH事業の成果の継承推進)	県工学びのスタンダードおよびSPH事業にて育む資質・能力に沿った授業を実践してきたが、全科において深い学びや思考力、的確な表現力につながる学習習慣がまだ身につけていない。	【満足度指標】 思考力、表現力が身についたと生徒自身が実感できることが、授業に対する満足度につながる。	「県工 Thinking time」などを通して、根拠を提示し論理的に主張できるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 A 60%以上 B 55%～60%未満 C 50%～55%未満 D 50%未満	C以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、目標提示および評価方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)	
	②	生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	家庭学習時間の減少や学習意欲の減退等の課題に対応する必要性が指摘されており、学習に対する意識付けや家庭学習につながる課題の出し方などを検討し、改善することが求められる。	【満足度指標】 予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に授業以外でしっかり取り組んだと実感できる。	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートA+B評価の割合で判断する。 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	A+B評価が70%未満の場合、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)	
	③	教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的な学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	授業力向上に向けて、相互の授業参観等が行われているが、生徒同士が「学び合い」「教え合い」責任を持ち合うことのできる能動的な学びの環境の整備が求められる。	【努力指標】 生徒が「能動的に」参加する授業を目指す公開授業を実施し、相互に授業参観する。	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の自己評価アンケートA+B評価の割合で判断する。 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	A+B評価が70%未満の場合、再検討する。	教師の自己評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
	④	授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。	学習情報課	1年生・3年生全クラスにプロジェクターが配備され、活用が進められている。ICT機器を活用した授業の比率は高くなりつつある。ICT機器の活用力の向上を図る必要がある。	【努力指標】 ICTを活用した公開授業等を実施し、研究協議会等での成果を授業改善に活かす。	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	C以下の場合は、学習情報課を中心に、ICT機器利用に係る研修のあり方を見直す。	生徒を対象に授業評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
2 将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	①	校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとっての基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導しているところである。将来の社会人としての基本的な生活習慣の確立を目指し引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】 人間性の溢れた活力ある校風を築くことを目指し、全校生徒が元気で爽やかな挨拶の励行を促す。  【成果指標】 時間を守り、規律ある生活を送り、遅刻者を減少させる。	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	C以下の場合は、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
		周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	町中であって周辺地域に対する理解や協力が必要であり、今後ともボランティア活動等の地域貢献活動を通じた一層の連携強化が求められる。	【努力指標】 ボランティア活動等、地域貢献活動に積極的に参加する意識を育てる。	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は、活動の意義等についての啓発を図る。	参加生徒を対象に活動後にアンケート調査を実施する。 (随時)
	②	交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	昨年度の違反指導件数は、前年比45%増加した。交通事故の撲滅のため、更なる違反指導件数の減少に向けた全校的取り組みが求められる。	【努力指標】 石川県警察が発表する月別の違反指導件数の減少を目指す。	違反指導件数減少の割合を目標とする。 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	Dの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。
③	いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	表面上は穏やかで安定しているように見えるが、全職員でアンテナを高くして見守る必要がある。	【努力指標】 生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている。教師対象の学校評価アンケートA評価の割合で判断する。 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	B以下の場合は、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	教師の自己評価アンケートを実施する。 (7月、12月)	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	昨今の就職希望者増に対応し、各学科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性との一層のずれのないマッチングが求められている。	【成果指標】 就職希望者の1社目受験での内定率をみる。	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	C以下の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	資格取得は専門学校における職業教育の中核となるものである。県工資格検定スタンダードを柱に据え、各学科ごとに、より一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】 ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数（特別表彰+ゴールド+シルバー）で判断する。 A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	Dの場合は、工業各学科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	それぞれの学科に関係する様々な全国大会やコンテスト、各種コンクールがあり、本校から積極的に参加している。大会成績およびコンテスト等の結果は、各学科専門教育のレベルを測る指標の一つと捉える。昨年度は、全国大会での4連覇およびコンクールにおける全国入賞、ものづくり大会入賞などの取り組みの成果があった。今後も継続して県大会はもとより、全国で活躍する取り組みが求められる。	【成果指標】 予選の有無やコンテスト等の特色により基準が異なることから、状況による判断基準を設定する。	〔地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会〕の場合は、大会出場の難易度で判断する。 A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した ----- 〔地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会〕の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	Dの場合は、工業各学科で指導や取り組みの見直しを行う。	年度末に集約し、判断する。
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部活動の加入率は、昨年度は97.3%であった。部活動は学校における活力の根源であり、学校活性化のための柱として位置付ける。  県総体での総合成績は男子が5位男女総合が6位であった。県高校総体総合優秀校を目指し、一層の強化が求められる。	【努力指標】 部活動への積極的な加入を促進し、加入率をみる。  【成果指標】 運動部・文化部のそれぞれが、県代表となることを目標に、活動のレベルアップを図る。	各学年の部活動の加入率で判断する。 A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満  県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	C以下の場合は、部活動の在り方について、部活動顧問連絡会で改善策を検討する。	部活動加入状況調査を実施する。 (7月、12月)
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	競技大会や県工祭など学校全体の行事や各学科の行う特色ある取り組みなど、多彩な行事が展開され、生徒の活力につながっている。今後、保護者が実感できるレベルまで更なる充実を図りたい。	【満足度指標】 保護者の目から見た生徒の学校行事に対する満足度をみる。	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満	C以下の場合は、次年度の行事について内容を検討する。	保護者を対象にアンケート調査を実施する。 (12月)
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科治療受診完了率は、少しずつ上昇している。健康への意識「早期発見・早期治療」の指標と捉える。今年度も継続して受診生徒の増加を目指す。昨年度は31.7%であった。	【努力指標】 保健だよりなど情報提供により、歯科受診率の推移をみる。	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	Dの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 (7月、12月)
5 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	伝統的に続いてきた行事の中で、真に継承すべきものか、整理・統合や内容の精選ができないかの検討が十分とはいえない。	【努力指標】 各分掌内で主管する行事や業務の見直しを行い、整理・統合や内容の精選につなげる。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務の見直しについて議論する。 A 協議の成果として、業務の改善を行った。 B 協議したが業務の改善には到らなかった。	Bの場合、改善できなかった理由を考える。	7月、12月に各分掌が職員会議で報告する。